令和 5 年度 (令和 4 年度事業分)

真室川町教育委員会
事務・事業点検評価報告

令和 5 年 8 月

真室川町教育委員会

事務事業評価シート目次

基本方向 学校教育「志高く 確かな学力を育む 人づくり」	-1-
基本方針 1 いのちを尊重し、豊かな心を育成する	-1-
施策 1 「いのちの教育」の推進	
2 いじめ防止・不登校対策の充実	
基本方針 2 たくましく、健やかな体を育成する	-4-
施策 3 子どもの体力向上に向けた取り組みの充実	
4 食育・健康教育の推進	
5 生活リズムの改善とメディアコントロール	
基本方針 3 確かな学力を育成する	-8-
施策 6 確かな学力の育成	
7 校種をこえた連続性のある学びの推進	
8 個の能力を伸ばすためのきめ細かな指導の充実	
基本方針 4 未来に向け、自己の生き方を考える力を育成する	-12-
施策 9 未来に向けた「ふるさと学習」の推進	
10 「本物体験」によるキャリア教育の推進	
基本方針 5 グローバル化・情報化に対応した力を育成する	-14-
施策 11 こ・保・小・中一貫の外国語活動・外国語教育の推進	
12 ICT教育・情報モラル教育、新聞活用学習の充実	
基本方針 6 学びを支える土台づくりを推進する	-17-
施策 13 地域とともにある学校づくり	
14 教職員がより子どもに向き合える体制づくり	
15 子どもたちの安全・安心の確保	
16 特別支援教育の充実	
基本方向 家庭教育・子育て支援「安心し 子育てができる 環境づくり」	-20-
基本方針 7 家庭教育の充実を図る	-20-
施策 17 教育の原点「家庭教育」の充実	
基本方針 8 子（個）の学習支援の充実を図る	-22-
施策 18 子（個）を支える家庭学習のサポート	
19 自己を高める学習へのサポート	
基本方針 9 子育てに夢をもてる環境をつくる	-23-
施策 20 安心して子育てができる環境づくり	
21 町ならではの教育基盤の整備	
基本方向 生涯学習・スポーツ「人をつなぎ 未来をひらく 学びのまちづくり」	-26-
基本方針 10 人と社会、学びをつなぐ環境をつくる	-26-
施策 22 地域の教育力向上を目指した学習環境等の充実	
23 ライフステージに応じた学びの機会の支援	
24 学校・家庭・地域等との連携・協働	
基本方針 11 感性豊かに生きる学びの場をつくる	-28-
施策 25 文化に親しみ文化を愛する環境づくり	
基本方針 12 誰もが楽しめるスポーツを推進する	-30-
施策 26 スポーツに親しみ健康な体づくり	
27 競技スポーツの振興	
基本方針 13 ふるさとをおもう心を耕す場をつくる	-32-
施策 28 郷土愛の醸成	
教育委員会の活動状況	-34-

基本方針1 いのちを尊重し、豊かな心を育成する

施策概要	<p>学校の教育活動全体で「いのちの教育」「道徳教育」を推進し、自らを認め、自らを信じる力、相手を思いやる心の醸成を図り、子どもたちの豊かな情操を養う。</p> <p>【施策1】 「いのちの教育」の推進</p> <p>【施策2】 いじめ防止・不登校対策の充実</p>
実施状況	<p>【施策1】 「いのちの教育」の推進</p> <p>(1) 学校における「いのちの教育」の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各校で「いのちの日」を設定して、「いのち」の大切さや将来の生き方について考える機会を設定した。 ・スクールカウンセラーより、レジリエンス教育を全小中学校で実施した。 ・道徳の授業や栽培活動等を通して、いのちの教育を具体的に実践した。 <p>(2) 家庭における「いのちの教育」の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道徳授業の授業参観や学校学年便りに取組の掲載を行った。 <p>(3) 地域における「いのちの教育」の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・清掃活動、ゴミ捨て禁止のポスター制作等のボランティア活動等を実施した。 <p>(4) 道徳教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各校で作成している道徳教育に関する全体計画に沿って、豊かな体験活動の充実に図りながら道徳教育を実施した。 <p>【施策2】 いじめ防止・不登校対策の充実</p> <p>(1) いじめ防止に向けた総合的な対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町いじめ問題対策連絡協議会 2回（うち、1回は専門員会との合同会議） ・町いじめ問題対策専門委員会 1回 <p>(2) 安心して過ごせる居場所づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじめアンケート等の活用だけでなく、日常的に子どもの声を聴き、変化を教職員間で情報共有しながら人間関係の把握、対応に努めた。 ・県事業で、真中にスクールカウンセラーが2名配置されている。週1回程度来校して児童生徒や保護者の悩みを対しての助言等をしていただいた。 ・困難なこともしなやかに乗り切っていく力の育成をめざし、スクールカウンセラーによる授業を実施した。（レジリエンス教育）
内部評価	<p>成果（○）と課題（△）</p> <p>【施策1】 「いのちの教育」の推進</p> <p>(1) 学校における「いのちの教育」の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ○各校における栽培活動等の体験や日常の授業、月1回「いのちの日」における読み聞かせや講話等を通して、一人ひとりの考えを尊重する場を重視することで、いのちあるものを大切にする心の醸成につながった。 ○中学校でジェンダー教育の推進、校則の見直し等を行い、生徒自らが考える機会につなげることができた。 <p>(2) 家庭における「いのちの教育」の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ○各校の学校学年便り等で、学校の取組を家庭に周知することができた。 △親子でいのちについて語り合う機会について、保護者会等で話題にしていく必要がある。

- (3) 地域における「いのちの教育」の充実
 ○ボランティア活動を通して、子どもたちの「人の役に立てた」という気持ちを高めることにつながった。
 △子どもたちが考えるボランティア活動、活動のねらいの明確化、活動後の振り返りの充実等により、より自己肯定感や変容の認知（自覚）をする必要がある。
- (4) 道徳教育の充実
 ○道徳の時間については、各校において、教職員が授業を見合ったり、保護者が授業を参観したり等、充実させることができた。
 ○いじめの未然防止と道徳教育の関連を意識し、職員が共通理解を図りながら、日々道徳教育を推進することができた。

【施策2】 いじめ防止・不登校対策の充実

- (1) いじめ防止に向けた総合的な対応
 ○町いじめ問題対策連絡協議会を開催することで、町全体の状況及び学校の取組関係者間で情報共有することができた。
 ○学校全体でいじめの定義に基づいていじめ認知の目をそろえ、組織的な未然防止、早期発見、早期対応の対策を行うことができた。
- (2) 安心して過ごせる居場所づくり
 ○教育課程の中で、行事後の振り返りや相互評価を行うなど、子ども同士が互いに認め合う場を設定することで、自己存在感の高揚につながった。
 ○各校での協働の学びや縦割り活動等を通して、良好な人間関係を築き、子どもたちが安心して過ごせる居場所づくりに繋げることができた。
 ○中学校へのスクールカウンセラー2名の配置により、子どもたちが安心して悩み等を相談できるような体制づくりができた。小学校における活用も進み、町内全小学校6年生でレジリエンス教育を行い、中学校に向けた連携も図られた。

《目標に対する進捗状況》

目標指標	対象	H30(県)	目標(R5)	状況(R4)
自分にはよいところがあると思う児童生徒の割合	小6	81.7(86.4)%	県より上回る 現状維持	82.5(81.1)%
	中3	94.0(83.0)%		81.8(80.1)%
学校の決まりを守っている児童生徒の割合	小6	90(91.9)%	現状維持又は それより上回る 現状維持	91.3(-)%
	中3	98.5(95.2)%		87.5(-)%
いじめの認知件数に占めるいじめが解消している者の割合	小6	100.0%	100.0	80.8%
	中3	100.0%	100.0	83.3%
不登校児童生徒の出現率 (※コロナによる出席停止等も含む)	小6	0.3(0.4)%	現状維持 減少させる	0.35%
	中3	3.8(2.7)%		5.48%

今後の方針

- 【施策1】 「いのちの教育」の推進**
- (1) 学校における「いのちの教育」の充実
 ・授業をはじめ学校生活の様々な場面で、自尊感情を高め、他者の生命や生き方を尊重できる意識の醸成を図っていく。
- (2) 家庭における「いのちの教育」の充実

	<ul style="list-style-type: none"> ・学校学年便り等で学校の取り組みを家庭に周知しながら、PTAの機能を生かした学校と家庭の連携を図っていく。 <p>(3) 地域における「いのちの教育」の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「人の役に立てた」「自分が必要とされている」と子どもが感じられるように、児童会や生徒会を中心に子ども主体のボランティア体験や地域貢献活動を充実させていく。 <p>(4) 道徳教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校の実態と願いを明確にし、豊かな体験活動や実践活動等を通して道徳性を養う道徳教育を引続き実施していく。 <p>【施策2】 いじめ防止・不登校対策の充実</p> <p>(1) いじめ防止に向けた総合的な対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町いじめ問題対策連絡協議会と町いじめ問題対策専門委員会を年2回開催しながら、引き続き、いじめの未然防止、早期発見、早期対応に努めていく。 ・SNSによるいじめの未然防止に向け、各学校の実態、発達段階に応じ、外部講師を活用する等、工夫した指導を継続していく。 <p>(2) 安心して過ごせる居場所づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子供に寄り添う指導を継続しながら、県事業で配置されたスクールカウンセラー等と連携を図り、いじめ・不登校の未然防止、早期発見、早期対応に努めていくとともに、小学校におけるスクールカウンセラーの活用を一層充実させていく。
外部評価委員による評価・意見	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア体験や地域貢献活動等については、今後の方針に示されているように、児童生徒自身が地域の一員としての活動を実感できるように、主体的な取り組みとなるように工夫する必要性を強く感じる。同時に、コロナ禍においてリセットされた体験活動等を再開・復活させる場合には、子どもたちにつけさせたい力と活動のねらいとの整合性を、各学校においてしっかり吟味されているかを確認し、必要に応じて指導していただければと思う。 ・スクールカウンセラーの複数配置により、小学校段階からレジリエンス教育を実施するなど、問題や悩みを抱える児童生徒の早期対応はもとより、いじめ、不登校、問題行動等の未然防止の観点からも大きな成果を上げていると感じた。 ・いのちの教育の難しさを感じる。子どもだけでなく、大人もレジリエンスを高める必要があると感じる。迅速に専門のスクールカウンセラーにおけるレジリエンス教育を行っていただいたのは、とても良いと思う。町民に対しても、講演があったら聞いてみたいと思う。 ・スクールカウンセラー2名の配置により、中学校だけでなく小学校への活用も進んだということは良いことだと思う。 ・児童生徒だけでなく、子どものことで悩んでいる保護者も多くいると思うので、気軽に相談できる場所だということアピールすることで、更に保護者も利用しやすくなるのではないかと思う。

基本方針2 たくましく、健やかな体を育成する

施策概要	<p>生涯にわたって多くのことを体験し、学び続けるなど、豊かで活力ある生活を送るために、健康でたくましい体を育む。</p> <p>【施策3】 子どもの体力向上に向けた取り組みの充実</p> <p>【施策4】 食育・健康教育の推進</p> <p>【施策5】 生活リズムの改善とメディアコントロール</p>
実施状況	<p>【施策3】 子どもの体力向上に向けた取り組みの充実</p> <p>(1) 体育授業の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感染症対策を実施しながら、体育の授業の中で、体を動かすことの楽しさやできる喜びを経験させることができた。 <p>(2) 全国体力・運動能力、運動習慣等の調査の分析と対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実態に応じて、つきたい力や取組を焦点化して学習活動を実践した。 <p>(3) 適切な運動部活動等の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動部活動のガイドラインや新型コロナウイルス感染症対策に関する通知等に則り、適切な活動になるように関係団体等と連携を図った。 ・休日の部活動地域移行に向けた内部検討会を開催し、児童生徒及び保護者、教職員にアンケートの実施、関係団体との町検討委員会設置に向けた情報収集、課題整理を行った。 <p>【施策4】 食育・健康教育の推進</p> <p>(1) 食に関する指導計画に基づく実践</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各校の食に関する指導計画に基づき、食による心身の健康づくりに取り組んだ。 <p>(2) 幼児期からの食育・健康教育の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育施設や小中学校において、田植えや畑づくりなどを体験し、収穫祭等で食べたり、行事食を通して季節や食材の旬、地域の食文化に出会うを体験するとともに、管理栄養士や養護教諭による給食時の食べ方指導や保護者相談を行った。 ・小中学校では生活習慣病予防、薬物乱用の危険性など、保健学習や保健指導において、健全な成長について学習した。 <p>(3) おいしいふるさと給食による地産地消給食の推進及び安全安心な給食の提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おいしいふるさと給食により地元産の食材を学ぶとともに食の大切さを学んだ。 ・地元食材を使った特別な献立給食 小中学校3回 保育施設3回 (小中学校は、食の教育大使監修メニュー) ・入園、入所、入学時に食物アレルギー等に関する調査を実施し、保護者と連携を図り、子どもの安全を最優先にした対応を行った。 <p>【施策5】 生活リズムの改善とメディアコントロール</p> <p>(1) 学校保健委員会の活用と家庭の連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各校で開催していた学校保健委員会を統一し、課題や取組方針を共有し各校の機動的、効率的な事業実施を図るとともに、参加者の負担を軽減している。 ・各校で「生活リズムアンケート」を実施し、指導に活用した。また、学校保健委員会等、保護者とともに考える場を設定した。 <p>(2) 関係団体との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町学校保健委員会等で学校、PTA、行政が情報共有及び連携し、学校医等の指導

	<p>助言を得ながら生活リズムの改善に取り組んだ。</p> <p>(3) 幼児期からのメディアコントロール</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育施設では、保護者を対象とした児童のスマホ依存、セーブメディアについて啓発するとともに、小中学校では家庭での話し合いをもとに、年間3回のメディアコントロール週間を設け、メディアとの付き合い方を学んだ。
内部評価	<p>成果（○）と課題（△）</p> <p>【施策3】 子どもの体力向上に向けた取り組みの充実</p> <p>(1) 体育授業の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ○感染拡大防止策を講じながら、水泳やダンスで外部講師を招聘するなどし、授業の中で体を動かす楽しさやできる喜びを経験させることができた。 <p>(2) 全国体力・運動能力、運動習慣等の調査の分析と対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ○調査結果を踏まえて、各校で実態に応じた指導目標と取組を設定し、課題解決に向けて取り組み、全国平均を上回った項目が増加した。 △運動習慣の二極化が懸念される。家庭・地域と連携し、運動習慣のない子どもたちに、健康的な運動習慣を自ら身につけようとする姿勢を育む必要がある。 <p>(3) 適切な運動部活動等の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ○町・学校が定めた運動部活動のガイドラインや国・県からのコロナ感染防止対策に関する通知等に則って、安全で適切な活動を行うことができた。 ○休日の部活動地域移行について、町の検討委員会を立ち上げ、実態を踏まえた課題の整理、町の方針等を検討していく必要がある。
	<p>【施策4】 食育・健康教育の推進</p> <p>(1) 食に関する指導計画に基づく実践</p> <ul style="list-style-type: none"> ○各校で指導計画に沿って、各教科との関連や家庭・地域との連携を図りながら、食による心身の健康づくりに繋げることができた。 <p>(2) 幼児期からの食育・健康教育の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ○園庭での農作業や農家の見学など、食べ物が生産される過程や食べ物の大切さ、命の大切さを学ぶことができた。 △肥満傾向の子どもへの支援の継続が必要である。 <p>(3) おいしいふるさと給食による地産地消給食の推進及び安全安心な給食の提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地元食材を使った特別な献立給食を年3回提供することで、子どもたちが地元の食に関心を持つことができた。 ○食の教育大使監修メニューで、地元食材の魅力を最大限引き出すことができた。 ○食物アレルギーがある子に対し、確実に対応することができた。 △季節によって限定されてしまう地元食材の確保が難しい。 <p>【施策5】 生活リズムの改善とメディアコントロール</p> <p>(1) 学校保健委員会の活用と家庭の連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ○各校の学校保健委員会を町学校保健委員会に統一し、PTAの参加を得ながら、町全体で保護者・家庭との連携を図ることができた。 △生活リズム実態調査を踏まえ、児童生徒の自発的な取り組みと保護者協力が必要である。 <p>(2) 関係団体との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ○町の学校保健員会として、各校からの情報を共有し、学校医等と連携しながら町全体で生活リズム改善の取り組みを行なうことができた。 △一人一台端末の導入もあり、ノーメディアからメディアコントロールに切り替え

	ていくうえで、連携を強化しながら取り組んでいく必要がある。 (3) 幼児期からのメディアコントロール ○SNSやゲームが楽しいことだけでなく、情報漏えいや健康への危険性を有することを学び、正しく利用できるように情報モラルの育成を図る指導を行ってきた。 △依然として、ゲームやテレビをやり続ける児童生徒が少数おり、幼児のメディア依存傾向もみられるため、テレビやゲームの時間制限など、自律する心の育成に向け、保護者を含め、就学時健診等により継続した啓発が必要となっている。 △目標指標がPCを活用した学習想定 of 指標になっていないため、指標の内容について再検討する必要がある。				
	《目標に対する進捗状況》				
	目標指標	対象	H30(県)	目標(R5)	状況(R4)
	新体力テストで全国平均以上の項目数の割合	小5	75.0%	増加させる	75.0%
		中2	43.8%	増加させる	43.8%
朝食を毎日食べている	小6	98.4(95.9)%	現状維持	95.0(95.8)%	
	中3	95.5(94.6)%	現状維持	86.4(94.1)%	
平日、TV・スマートフォン・タブレット・PC/ゲーム機などを利用してメール・動画・SNSを2時間以上している児童生徒の割合(R4は、メディア利用には学習時間も含む)	小5、6	10.0%	現状維持	49.4%	
	中1～3	28.0%	現状維持	51.0%	
今後の方針	【施策3】 子どもの体力向上に向けた取り組みの充実 (1) 体育授業の充実 ・運動量を確保し、運動の持続や楽しさ、できる喜びを実感できる授業を継続しつつ、運動やスポーツについての興味関心を高めていく。 (2) 全国体力・運動能力、運動習慣等の調査の分析と対応 ・調査結果を踏まえて、各校学年で実態に応じた指導目標を設定し、課題解決に向けた取り組みを継続していく。 ・運動習慣のない子どもたちについて、家庭と連携して運動習慣の改善に取り組む。 (3) 適切な運動部活動等の推進 ・町・学校が定めた運動部活動のガイドラインに則った活動が実施されるように、関係団体や家庭と連携していく。 ・町の休日部活動地域移行検討委員会を立ち上げ、児童生徒、保護者、関係団体等への周知を図りながら、休日の部活動移行を推進していく。 【施策4】 食育・健康教育の推進 (1) 食に関する指導計画に基づく実践 ・各校で指導計画に沿った指導を継続して実施し、食による心身の健康づくりにつなげていく。 (2) 幼児期からの食育・健康教育の実施 ・園庭での農作業や農家の見学など、食べ物が生産される過程や食べ物の大切さ、命				

	<p>の大切さを学ぶ機会をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肥満傾向のある子どもへの個別の支援を家庭と連携していく。 <p>(3) おいしいふるさと給食による地産地消給食の推進及び安全安心な給食の提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おいしいふるさと給食事業を継続し、地産地消給食を提供し、食による心身の健康づくりの推進を図っていく。 ・地元食材の魅力を最大限引き出すためにも、食の教育大使によるメニュー監修を継続する。 ・食物アレルギーがある子に対し、確実に対応を行っていく。 <p>【施策5】 生活リズムの改善とメディアコントロール</p> <p>(1) 学校保健委員会の活用と家庭の連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町学校保健委員会で統一した取り組みについて、さらに家庭との連携を強化していく。 ・メディアを子ども自らコントロールし適切な活用ができるよう家庭と連携し、親子で振り返りするなど、意識を高めていく。 <p>(2) 関係団体との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町学校保健委員会で、各校からの情報を共有し、学校医等と連携しながら町全体で生活リズム改善に取り組んでいく。 <p>(3) 幼児期からのメディアコントロール</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町学校保健委員会で情報共有し、幼児期については、保育施設や保健師等関係機関と連携しながら、就学時健診等を利用して、保護者への啓発に取り組んでいく。 ・一人一台端末の導入により、家庭でもPCによる学習や情報収集が日常的となってきたため、メディアとの区別を保護者を含め研修を行っていく。
外部評価委員による評価・意見	<ul style="list-style-type: none"> ・町内各小中学校の共通重要課題である「メディアコントロール」については、特に町一本化している学校保健委員会の特色をいかし、家庭、学校、地域が共通認識に立った実践を進めるなど、町全体で難題に取り組んでいただきたい。 ・「おいしいふるさと給食」は、予算及び取り組み内容の面から見て、真室川町の重要教育施策の一つだと思う。単に地産地消の推進にとどまらず、扱う食材の生産過程や生産者の願い、さらには、まつわる歴史や文化に広げた学びにもつながり、幼児、児童生徒の心に刻まれる取り組みとなっていると感じた。是非、子どもたちの豊かな心の醸成につながっている点について、内部評価で検証を行い、発信していただいていると思う。 ・物価も高騰し食材の確保も大変な中、健康・成長を考慮して、安心・安全な給食を提供していただいているのはとても有難いと感じる。 ・地元の食材を生かした「おいしいふるさと給食」も定着してきていて、子ども達も楽しみにしていると感じる。 ・「おいしいふるさと給食」は、町内で収穫した野菜などを使っていて、子ども達も毎回楽しみにしているようである。とても魅力的な給食、今後も継続してほしい。 ・情報化社会の真ただ中、メディアに触れないことは無理なので、ノーメディアからメディアコントロールへの取り組みに変わったこと、コントロールしていくことを意識づけていくことは、とても大切なことだと思う。 ・メディアコントロールは、その期間だけでなくコントロールできるよう、親と子の間でしっかり話し合い、継続していかないと、子どもが自らコントロールしてしていくことはなかなか難しいと思うため、今後も続けていくべきだと思う。

基本方針3 確かな学力を育成する

施策概要	<p>変化の激しい社会をたくましく生き抜くため、自ら考え、主体的に判断し、柔軟に対応する力を育む。</p> <p>【施策6】 確かな学力の育成 【施策7】 校種をこえた連続性のある学びの推進 【施策8】 個の能力を伸ばすためのきめ細かな指導の充実</p>
実施状況	<p>【施策6】 確かな学力の育成</p> <p>(1) 探究型学習の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各校の校内授業研究会及び町小中連携学びづくり研修会を通して、探究型学習のポイントを共有し、日常の授業改善を図った。 ・ICTを効果的に活用しながら、学習の基盤となる資質能力を育成する探究型学習の実現に向けた授業づくりを行ってきた。 <p>(2) 「授業づくりの5つの基本ポイント」の徹底</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度より「授業づくりの5つの基本ポイント」に代わる「真室川町授業づくりスタンダード」を参考に、各校の実態を踏まえた授業研究を行った。スタンダードの実施状況を把握するため、年2回授業者にアンケートを実施した。 <p>(3) 最上教育事務所・地区教育研究センター・大学との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内授業研究会に外部機関からの指導・助言者を招聘し、確かな学力の定着に向けた指導の在り方を指導いただきながら、校内研究の充実を図った。 <p>(4) 全国学力・学習状況調査等の分析・活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力テスト等から個々の実態や学校全体の課題を把握し、アクションプランを作成して課題の改善策を講じ、全校教員で実践・評価・検証を行った。 <p>【施策7】 校種をこえた連続性のある学びの推進</p> <p>(1) 「本物教室」による感性教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県立博物館学芸員からマムログワクジラを学ぶ、警察音楽隊によるスクールコンサートを開催する等を通して豊かな感性をはぐくむ教育を推進した。 <p>(2) 異年齢（大学生等）との交流及び学習機会の設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・聖心女子大学生とのキャリア学習、真校生と小学生の合同料理学習等、異校種と交流する機会を設定した。 <p>(3) こ・保・小・中の連携による教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育推進委員会等において情報を共有し、個々のニーズに応じた支援を提供してきた。 ・こ・保・小で保育や授業を参観し、外部講師より子どもの育ちをつなぐ連携のあり方について学んだ。 ・「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を踏まえ、幼児期に適切な活動（アプローチカリキュラム）を実践するとともに、児童を捉える視点としてドキュメンテーションを取り入れて、小学校と一緒に研修・意見交換・情報共有し、保育施設で培った育ちと学びがスムーズに接続するよう「こ・保・小」の連携を図った。 <p>※ドキュメンテーションとは、子ども自身が活動を振り返り次の活動へ生かすことを目的に、子どもの活動（思考や探究活動）を写真や動画、音声、文字などで視覚的に記録したもの。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「小小」「小中」の連携事業を行いながら、子ども一人ひとりについて、個別の支援

	<p>計画等も含め、確実な引き継ぎを行った。 特別支援教育推進委員会等 2回</p> <p>【施策8】 個の能力を伸ばすためのきめ細かな指導の充実</p> <p>(1) 探究型学習の推進（施策6-(1)参照）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小小連携 6回（各学年1回） ・小中連携 7回（全体研修3回、外国語教育4回） <p>(2) 学習指導員・支援員等の配置</p> <ul style="list-style-type: none"> ・真小（学習指導員 2人、学習支援員 1人） ・あさひ小（学習指導員 1人、学習支援員 1人）・北部小（学習指導員 1人） ・真中（学習指導員 2人、学習支援員 2人） <p>(3) 公営塾の拡大充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数学講座（夏休み期間、中3対象） 開催回数：5回 参加人数：20名 ・算数・数学講座（春休み、小5～中2対象） 開催回数：学年ごと5回 参加人数：小5 13人、小6 17人、中1 15人、中2 12人 合計57人 ※コロナの影響により、オンラインと対面のハイブリット形式で開催 ・英検対策講座（小5～中3対象） 参加人数 71名 (5級：33名、4級：18名、3級：15名、準2級：5名)
内部評価	<p>成果（○）と課題（△）</p> <p>【施策6】 確かな学力の育成</p> <p>(1) 探究型学習の推進</p> <p>○各学校が、子どもにつけたい力を焦点化しながら探究型学習を推進することで、協働的に学びながら、主体的に解決していこうとする子どもが増えている。</p> <p>△今後は、授業と家庭学習を関連付けた学びの充実と、個に応じた家庭学習の定着を図るための取組を工夫する必要がある。</p> <p>(2) 「授業づくりの5つの基本ポイント」の徹底</p> <p>○令和4年度より「授業づくりの5つの基本ポイント」に代わる「真室川町授業づくりスタンダード」を参考に、各学校が児童生徒の実態に応じた授業づくりを行なったことで、町内学校が指導の際に重視すべきことを共通理解して実践することができ、小中連携の充実にもつながった。</p> <p>△子どもに力がついたか確認する評価、授業前、授業後も含めた授業づくりについて研修を行っていく必要がある。</p> <p>(3) 最上教育事務所・地区教育研究センター・大学との連携</p> <p>○外部機関等から指導・助言者を招聘した授業研究会を通して、各学校の実態に応じた指導に研究の充実を図ることができた。</p> <p>△指導・助言されたことを日常の授業に生かしているか評価・検証し、次の改善策へつなげていく授業づくりを継続していく必要がある。</p> <p>(4) 全国学力・学習状況調査等の分析・活用</p> <p>○学力テストや知能検査等により、各学校の実態把握を行い、学校全体の取組を焦点化し、日々の授業改善に生かすことができた。</p> <p>△結果から見えた良さや課題を校内で共有しながら、学力向上策を全学年・教科で、日常実践を継続していくことが大切である。</p>

【施策7】 校種をこえた連続性のある学びの推進

(1) 「本物教室」による感性教育の推進
 ○新型コロナウイルスの影響を考慮しながら、実施可能な事業を検討し実施することで、感性教育に資することができた。

(2) 異年齢（大学生等）との交流及び学習機会の設定
 ○小学生と大学生とのキャリア学習、高校生と中学生の部活動合同練習、高校生と小学生の合同料理学習を行うことで、先輩への憧れや進路意識の高揚に繋がった。
 △目的を明確にした交流、相互にとって効果的な交流を工夫していく必要がある。

(3) こ・保・小・中の連携による教育の推進
 ○特別支援教育推進委員会等の情報共有により、特別な支援が必要な児童に対する情報共有が図られ、本人にとってより望ましい関わりと就学につなげることができた。

【施策8】 個の能力を伸ばすためのきめ細かな指導の充実

(1) 探究型学習の推進（施策6-1参照）

(2) 学習指導員・支援員等の配置
 ○各校の実態に合わせて、学習指導員、学習支援員を配置することができた。

(3) 公営塾の拡大充実
 ○コロナ感染防止対策を行いながら、英検対策講座、算数・数学講座を開講し、昨年度と同程度の受講者数を確保することができた。また、家庭学習習慣の定着につながるようオンライン自習室を実施した。
 △英検対策講座の受講生をさらに増加させ、英検3級以上合格に繋げていきたい。

《目標に対する進捗状況》				
目標指標	対象	H30（県）	目標（R5）	状況（R4）
国語、算数・数学の内容が「よく分かる」児童・生徒の割合	小6	83.4%	増加させる	78.8(81.9)%
	中3	71.7%	増加させる	79.5(77.1)%
将来の夢や目標をもっている	小6	91.7(86.2)%	現状維持	77.5(80.4)%
	中3	72.7(75.5)%	80	70.4(69.7)%
平日、学校の授業時間以外に勉強を1時間以上する児童及び2時間以上する生徒	小6	80.0(76.0)%	現状維持	65.0(70.0)%
	中3	42.5(29.2)%	50	40.9(26.0)%
英検3級以上受験する中学生の割合 英検3級以上程度の英語力のある中学生の割合	中3	21.0%	増加させる	50.0(42.5)%
		28.1%	増加させる	47.8(42.3)%

今後の方針

【施策6】 確かな学力の育成

(1) 探究型学習の推進
 ・小中で育てたい資質・能力を共有し、各校が校内授業研究会を中心に、児童生徒の実態に応じて、日常の授業改善を図りながら探究型学習を推進し、個に応じた学習の定着を図っていく。

	<p>(2) 「授業づくりの5つの基本ポイント」の徹底</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「授業づくりの5つの基本ポイント」に代わる「真室川町授業づくりスタンダード」の共通実践として、授業前、授業、授業後に大切にしたいポイントを町で共有し、子どもに力をつく授業づくりを継続していく。 <p>(3) 最上教育事務所・地区教育研究センター・大学との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外部機関等の事業を積極的に活用し、各校の実態に応じた指導の在り方について研究の充実を図っていく。 <p>(4) 全国学力・学習状況調査等の分析・活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知能検査や学力テスト等により、一人ひとりの実態把握を行い、課題を明確にして、日々の授業を実践し、確かな学力を育成していく。 <p>【施策7】 校種をこえた連続性のある学びの推進</p> <p>(1) 「本物教室」による感性教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「本物教室」を継続実施し、感性教育の推進を図っていく。 <p>(2) 異年齢（大学生等）との交流及び学習機会の設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校生や大学生と交流・学習する機会を設定し、進路意識の高揚を図っていく。 <p>(3) こ・保・小・中の連携による教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・継続して特別支援教育推進委員会等を開催、情報共有するとともに、連携事業の内容充実など、向上に努めていく。 ・こ・保・小の子どもの育ちに応じたカリキュラムの見直しと研修会を通じた互いの教育観・指導観の相互理解を深めていく。 <p>【施策8】 個の能力を伸ばすためのきめ細かな指導の充実</p> <p>(1) 探究型学習の推進（施策6-(1)参照）</p> <p>(2) 学習指導員・支援員等の配置</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりの学習保障のために必要な学習指導員、学習支援員を配置し、適切な支援を行っていく。 <p>(3) 公営塾の拡大充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通年開催の英検対策講座、夏季及び春季開催の算数・数学講座の実施に加えて、オンライン自習室の利用者を増加させ、学習の定着をサポートしていく。
外部評価委員による評価・意見	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の現状と課題に対応した公営塾の取り組みは、英検対策講座及び算数・数学講座ともに、参加する児童生徒の割合が増加しており、児童生徒の知的好奇心を刺激し、個の能力の伸長というねらいはもとより、最終的には、確かな学力の育成にもつながるものと期待している。遠隔地からの公営塾参加者向けに、スクールバスを運行させることが出来ないか検討いただきたい。オンラインでの参加を可能にしているところは、大いに評価できるが、同じ教室の中で刺激し合うことと、生の授業の重要性の観点から、是非検討いただきたい。 ・本物教室での子ども達の目の輝きが違う。実際に見ることによって心に響くものがあり、興味・関心も湧き、感性が磨かれていくと思う。 ・英検3級以上受験する中学生が大幅に増加していることは、小学校からの英語の授業や指導、公営塾による学習の積み重ねの結果だと思う。 ・探究型学習では、小学校も中学校も発表する場で県の大賞をいただいていたりと、結果が出ている。これから定着させていけると良い。 ・公営塾は、英検対策はもちろん、数学塾では基本・応用と分けられ、勉強する子ども

たちも自分に合わせて学習できるので、とても良い環境だと思う。コロナ感染防止対策として、オンライン授業も取り入れたのは良かったと思う。

基本方針4 未来に向け、自己の生き方を考える力を育成する

施策概要	<p>郷土の豊かな歴史、文化、自然、産業を生かし、本物体験重視の教育を展開し、子どもの知的好奇心を高める。</p> <p>学んだことを基に、「創る、発信する」などのアウトプットする学習を大切にする。</p> <p>【施策 9】 未来に向けた「ふるさと学習」の推進</p> <p>【施策 10】 「本物体験」によるキャリア教育の推進</p>
実施状況	<p>【施策 9】 「未来に向けた「ふるさと学習」の推進</p> <p>(1) 「真室川キッズブランド」づくりの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 各学校が、地域資源を活用し、特色を生かしたふるさと学習を推進し、町内外に発信した。 真室川小：鮭延秀綱公やトロッコ列車等のふるさと学習の成果を劇で紹介 あさひ小：伝承野菜を使った真室川校との合同調理実習 北部小：町PRポスターを制作し、町内外に掲示 真室川中：学んだ成果を町への提言として議場でプレゼンテーションを実施 <p>(2) 町を学ぶ地域教材の作成・活用</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和2年度から実施された新学習指導要領に沿って、改訂済の町社会科副読本を各小学校の授業で活用した。また、令和6年度改訂に向けた編集作業を行った。 <p>(3) 「ふるさと検定」等の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 町としての「ふるさと検定」は未実施。真小で系統性あるふるさと学習を推進し「真小ふるさと検定」を実施した。 <p>(4) 関係団体、町関係課、町民等との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> 真室川中で、音頭保存会の方を講師に真室川音頭の学習を実施し、運動会や修学旅行等で発表した。 <p>【施策 10】 「本物体験」によるキャリア教育の推進</p> <p>(1) 体系的なキャリア教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 中学校で職業講話を実施した。 小学校で、医療従事の職業体験学習を実施した。 <p>(2) 「本物体験」を通じた勤労観や職業観の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> 中学校で実施している職場体験は、コロナ対策を講じて実施した。
内部評価	<p>成果（○）と課題（△）</p> <p>【施策 9】 「未来に向けた「ふるさと学習」の推進</p> <p>(1) 「真室川キッズブランド」づくりの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ○各学校の特色を生かしたふるさと学習を推進し、子どもの知的好奇心の高揚を図ることができた。 ○学習及び外部発信の成果として、中学校が県教育委員会主催の「郷土 Yamagata ふるさと探究コンテスト」で最高賞を受賞し、9年間のふるさと学習の集大成となった。 <p>(2) 町を学ぶ地域教材の作成・活用</p>

- 新学習指導要領に沿って改訂した町社会科副読本を令和2年度から活用しながら、地域について学習できた。
- △地域教材についての効果的な活用に向け、令和6年度改訂版編集では、多くの資料を掲載できるデジタル副読本を検討していく。
- (3) 「ふるさと検定」等の実施
 - △真小で行った「真小ふるさと検定」を参考にしながら、実施に向けた検討が必要である。
- (4) 関係団体、町関係課、町民等との連携
 - 伝承芸能団体や高校生ボランティア団体と連携した事業については、子どもたちの充実から、今後も継続して実施していく。

【施策10】 「本物体験」によるキャリア教育の推進

- (1) 体系的なキャリア教育の推進
 - 中学校では職業講話を実施し、働くことの意義や将来の職業に対する興味関心の向上につなげることができた。
 - 町内の学校の取組を互いに通信等で各校が共有し、学びあうことができた。
- (2) 「本物体験」を通じた勤労観や職業観の育成
 - 職場体験は、勤労観や職業観の育成に繋げることができるため、今後も継続実施していくことが必要である。
 - △地元事業者が一堂に会した出張職場体験等、生徒が多様な職業を体験できる機会を確保し、広い視野を持ってキャリアプランニング力を育てる必要がある。

《目標に対する進捗状況》

目標指標	対象	H30(県)	目標(R5)	状況(R4)
今住んでいる地域の行事に参加している児童生徒の割合	小6	86.6(80.9)%	現状維持	67.5(71.6)%
	中3	75.8(59.1)%	現状維持	63.6(55.3)%
地域や社会をよくするために何をすべきか考えたことがある児童生徒の割合	小6	55.0(52.0)%	60.0	52.5(55.4)%
	中3	42.2(44.5)%	60.0	43.2(50.3)%
将来の夢や目標をもっている(再掲)	小6	91.7(86.2)%	現状維持	77.5(80.4)%
	中3	72.7(75.5)%	80.0	70.4(69.7)%

今後の方針

【施策9】 「未来に向けた「ふるさと学習」の推進

- (1) 「真室川キッズブランド」づくりの推進
 - ・育てたい力を踏まえながら、今後も地域教材を生かし、各校特色あるふるさと学習を充実させ、学んだことを積極的に町内外に発信していく。
 - ・ふるさと学習の集大成となる中学3年による町への提言を継続し、子どももゴールを意識したふるさと学習を推進していく。
- (2) 町を学ぶ地域教材の作成・活用
 - ・町社会科副読本を積極的に活用して、郷土を知り郷土に学ぶ授業を充実させていく。
 - ・令和6年度改訂の副読本をデジタル化し、より多くの町の資料を掲載して、活用の充実を図る。
- (3) 「ふるさと検定」等の実施
 - ・真小で行った「真小検定」を参考にし、係間の連携を図りながら、今後取り組ん

	<p>でいく。</p> <p>(4) 関係団体、町関係課、町民等との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関係機関と連携を図りながら、郷土の豊かな歴史、文化、自然、産業を生かしたふるさと学習に取り組んでいく。 <p>【施策10】 「本物体験」によるキャリア教育の推進</p> <p>(1) 体系的なキャリア教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元企業についての職場見学や体験、職業講話等について、地域と連携したキャリア教育を推進し、町や最上地域についての理解を深め地域を支える人材の育成に繋げていく。 <p>(2) 「本物体験」を通じた勤労観や職業観の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職場体験を通じて、勤労観や職業観の育成に繋げていく。 ・他課と連携しながら、地元事業者が一堂に会した出張職場体験等、生徒が多様な職業を体験できる組織、体制を整備する。
外部評価委員による評価・意見	<ul style="list-style-type: none"> ・「真室川キッズブランド」づくりの取り組みは、各小中学校での「ふるさと学習」の目的性を高め、更なる充実発展につながるものと期待している。ただ、「真室川キッズブランド」は、各小中学校それぞれ単独でめざすというよりも、各小学校での基礎的な取り組みを基盤にして、中学校における集大成した取り組みにより、ブランド化を目指すという方向性も検討いただきたい。 ・同じ小学校でも、地区や人数に応じて学校ごとに様々な特色があり、ふるさと学習を行っていることが分かった。真室川キッズブランドの今後の楽しみ。将来的に真室川町に住みたいという郷土愛により人口減少につながることに期待する。

基本方針5 グローバル化・情報化に対応した力を育成する

施策概要	<p>グローバル化が進む社会において、国際社会で生き抜くために必要なスキルを高める。</p> <p>【施策11】 こ・保・小・中一貫の外国語活動・外国語教育の推進</p> <p>【施策12】 ICT教育・情報モラル教育、新聞活用学習の充実</p>
実施状況	<p>【施策11】 こ・保・小・中一貫の外国語活動・外国語教育の推進</p> <p>(1) ALT・外国語補助員の配置と活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ALT 2名（中学校） ・英語指導補助員 1名（小学校） <p>(2) 実用英語技能検定受験のサポート（施策8-(3)参照）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学5年生～中学3年生を対象にした公営塾、英検対策講座の実施 ・英検受験料（学年相当級以上の級） 年1回分補助 <p>(3) 外国語教育推進委員会の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中連携による外国語推進委員会 4回 <p>【施策12】 ICT教育・情報モラル教育、新聞活用学習の充実</p> <p>(1) タブレット型端末等のICT環境の整備・活用・充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全校児童生徒 PC持ち帰り用バック、アダプタ ・専門業者をICT支援員として配置、業者委託

	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習におけるICTの効果的活用 (2) 情報モラル教育の充実（施策5-(3)参照） <ul style="list-style-type: none"> ・情報活用能力目標リストを活用し、系統性ある情報モラル教育の充実 (3) 1学級1新聞事業の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・県補助事業を活用し、小学校5年生以上の各学級に1部、山形新聞を購入 ・山形新聞のデータベースを利用した授業の実施
内部評価	<p>成果（○）と課題（△）</p> <p>【施策11】 こ・保・小・中一貫の外国語活動・外国語教育の推進</p> <p>(1) ALT・外国語補助員の配置と活用</p> <p>○ALTがこども園や保育所で外国語活動を行い、英語指導補助員が各小学校で指導補助を行うことで、外国語活動・外国語教育の推進を図ることができた。</p> <p>(2) 実用英語技能検定受験のサポート（施策8-(3)参照）</p> <p>○公営塾英検対策講座を開講に加えてオンライン自習室を開催し、実用英語技能検定取得のためのサポートを行った。</p> <p>○英検受験料補助により、受験機会の拡大に繋がった。</p> <p>△合格率の向上につなげていく必要がある。</p> <p>(3) 外国語教育推進委員会の活用</p> <p>○町内4校で、外国語の授業を互いに参観し合い、外国語の指導力向上に取り組むことができた。</p> <p>△町のさらなる外国語教育の充実に向け、外部講師を招聘するなど、研修内容を吟味していく。</p> <p>【施策12】 ICT教育・情報モラル教育、新聞活用学習の充実</p> <p>(1) タブレット型端末等のICT環境の整備・活用・充実</p> <p>○コロナの臨時交付金等を活用することで、家庭学習に使用する際等に、安全に持ち帰る物品を整備することができた。</p> <p>○出席停止等で学校を休んだ際に、ICTを活用して授業に参加し、学びの保障につながった。</p> <p>△教員のICT活用に偏りが出ないようにサポート方法を検討する必要がある。</p> <p>(2) 情報モラル教育の充実（施策5-(3)参照）</p> <p>○情報活用能力目標リストによる系統的な指導を行うことができた。</p> <p>△家庭や外部団体と連携し、発達段階や実態に応じた系統的な指導を行う必要がある。</p> <p>(3) 1学級1新聞事業の推進</p> <p>○各学級に新聞を配置することで、教師も継続した活用を工夫したことで、子どもたちが新聞に触れる機会が増え、記事に興味関心を持つようになった。</p> <p>△新聞の活用により、どんな力を育てるのか学校の実態を踏まえて系統的、体系的に検討・実践していく必要がある。</p>

	《目標に対する進捗状況》				
	目標指標	対象	H30(県)	目標(R5)	状況(R4)
	英検3級以上程度の英語力のある中学生の割合(再掲)	中3	28.1% ※H29の状況	増加させる	47.8(42.3)%
週1回以上新聞を読んでいる児童生徒の割合	小6	38.3(23.6)%	50.0	25.0(16.5)%	
	中3	13.6(17.2)%	50.0	15.9(13.4)%	
今後の方針	<p>【施策11】 こ・保・小・中一貫の外国語活動・外国語教育の推進</p> <p>(1) ALT・英語指導補助員の配置と活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ALT、英語指導補助員の効果的な配置を行い、外国語活動・外国語教育の推進を図っていく。 <p>(2) 実用英語技能検定受験のサポート(施策8-(3)参照)</p> <ul style="list-style-type: none"> 受験機会の拡大に繋げるため英検受験料補助を継続していく。 <p>(3) 外国語教育推進委員会の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業参観の視点を焦点化し、外部講師による指導助言を仰ぎながら外国語の指導力向上に取り組んでいく。 <p>【施策12】 ICT教育・情報モラル教育、新聞活用学習の充実</p> <p>(1) タブレット型端末等のICT環境の整備・活用・充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 情報機器を利用する教員のスキルアップによる端末活用の底上げ支援を行い、子どもたちの情報活用能力の育成を図っていく。 教員の指導力向上を図るため、研修機会を設けていく。 家庭と学校とのオンライン学習について、双方向による交流を伴った学習の充実を図っていく。 ICTを活用した電子図書の導入により、一層の端末活用を図る。 <p>(2) 情報モラル教育の充実(施策5-(3)参照)</p> <p>(3) 1学級1新聞事業の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 1学級1新聞の取り組みを継続しながら、データベースを有効活用し、子どもたちが新聞に触れる機会を設定していく。また、新聞記事を活用した学習に計画的、継続的に取り組んでいく。 				
外部評価委員による評価・意見	<ul style="list-style-type: none"> ALT2名、英語指導補助員1名の計3名の人員配置は、学校数や規模を考慮しても、手厚い配置といえると思う。公営塾(英検対策講座)の設置とともに、育てたい子どもの姿と子どもたちにつけたい力に応じた行政努力だと思う。是非、幼児期から中学校卒業まで、意図的・計画的な一貫教育により、外国語活動・教育の充実をめざしていただきたい。 宿題の自学もパソコンで打ってまとめ、プリントアウトしノートに張る。小さい頃から触れていることもあり、使いこなし、のみこみの早さはやはり時代の流れを感じる。 小さい頃から本物の外国語に触れられて、中学校では対面で英会話をする機会があり、とても良い経験だと思う。 子育て支援でも、ALTではないが、外国語に触れる機会があり、今後も継続してほしい。 				

基本方針6 学びを支える土台づくりを推進する

施策概要	<p>未来の真室川町の宝である子どもの教育に、地域みんなが関わっていく。それにより、特色ある学校づくり、教職員がじっくり子どもと向き合う体制、安全で安心できる教育環境を整える。</p> <p>【施策13】 地域とともにある学校づくり 【施策14】 教職員がより子どもに向き合える体制づくり 【施策15】 子どもたちの安全・安心の確保 【施策16】 特別支援教育の充実</p>
実施状況	<p>【施策13】 地域とともにある学校づくり</p> <p>(1) 学校・家庭・地域の連携協働推進事業の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各校に設置した学校運営協議会の中で、保護者や地域の方などからも意見等をいただき、学校経営の改善に反映させた。 <p>(2) 地域学校安全指導員の配置と見守り組織との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域学校安全指導員を中心に、見守り組織等と連携しながら、登下校における子どもたちの安全を支えた。 <p>【施策14】 教職員がより子どもに向き合える体制づくり</p> <p>(1) 学習指導員・支援員等の配置（施策8-(2)参照）</p> <p>(2) 校務支援システムの導入</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校務支援システムを導入し、教職員の事務処理等負担軽減を図った。 <p>(3) 部活動指導員の配置</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部活動指導員 1名 <p>【施策15】 子どもたちの安全・安心の確保</p> <p>(1) 学校施設・環境の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・真小 ホール擁壁改修設計 ・真中 屋根及び外壁改修設計・工事 ・各校 網戸設置 ・真小 ジャングルジム設置 ・真小 グランドピアノ購入 ・あ小 調理室冷凍庫更新 ・北小 雲梯設置 ・真中 新1、2年生教室用ロッカー購入 ・真中 新1年生教室用カーテン購入 ・真小 プール機械室ドア修繕 ・真小 調理室内手洗いシンク修繕 ・令和4年11月から、登下校時に歩道のない地区の安全確保として、東町地区、南町地区、宮町1地区の小学校児童をスクールバス乗車とした。 <p>(2) 通学路合同点検の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通学路合同点検 2回 <p>(3) 地域学校安全指導員の配置と見守り組織との連携（施策13-(2)参照）</p> <p>(4) 安全教育（生活安全・交通安全・災害安全）・防災教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各校において、登下校の指導、避難訓練などを実施 ・洪水時の避難確保計画の作成（対象学校） ・子ども自ら危機管理能力を高めていくために、子ども目線の点検を実施 <p>【施策16】 特別支援教育の充実</p> <p>(1) 特別支援教育推進委員会による町全体での特別支援の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育推進委員会 2回

	<ul style="list-style-type: none"> ・町特別支援教育専門家チーム会議 3回 (2) 切れ目のない支援を行う体制づくり <ul style="list-style-type: none"> ・町特別支援教育専門家チームによる巡回相談 5回 (3) 学習指導員・支援員等の配置（施策8-(2)参照）
内部評価	<p>成果（○）と課題（△）</p> <p>【施策13】 地域とともにある学校づくり</p> <p>(1) 学校・家庭・地域の連携協働推進事業の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ○各校に設置した学校運営協議会の中で、保護者や地域の方などからも意見等をいただき、学校経営に反映させることができた。 <p>(2) 地域学校安全指導員の配置と見守り組織との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域学校安全指導員を中心に、見守り組織等と連携しながら、登下校における子どもたちの安全を支えることができた。 △地域学校安全指導員の高齢者によるなり手問題や、登下校時のスクールバス化により、指導員のあり方について検討していく必要がある。 <p>【施策14】 教職員がより子どもに向き合える体制づくり</p> <p>(1) 学習指導員・支援員等の配置（施策8-(2)参照）</p> <p>(2) 校務支援システムの導入</p> <ul style="list-style-type: none"> ○校務支援システムを導入して教職員の事務処理等負担軽減を図ることができた。 <p>(3) 部活動指導員の配置</p> <ul style="list-style-type: none"> ○部活動指導員を配置することで、教職員の負担軽減に繋がった。 △部活動指導員の人材の確保が難しい。 <p>【施策15】 子どもたちの安全・安心の確保</p> <p>(1) 学校施設・環境の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ○コロナの臨時交付金等を活用することで、コロナ感染症対策に対応したアルコール等の消毒関係消耗品を継続して整備することができた。 ○小学校で徒歩通学の児童が利用する通学路のうち、歩道のない箇所等の地区について、スクールバスの対応により安全の確保ができた。 <p>(2) 通学路合同点検の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ○通学路合同点検を実施することで、通学路に関する危険箇所等を把握し、関係機関で情報共有することができた。 <p>(3) 地域学校安全指導員の配置と見守り組織との連携（施策13-(2)参照）</p> <p>(4) 安全教育（生活安全・交通安全・災害安全）・防災教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ○各校において、登下校の指導、避難訓練などを実施し、子どもたちの意識向上に繋げることができた。 ○町内全校が外部指導者を招聘し、専門的な視点から不審者対応、避難訓練の視点を学ぶことができた。 ○子どもが自らのいのちを守り抜くための危険予測、回避能力等を育成するためにも、子ども目線の点検は効果的であった。 <p>【施策16】 特別支援教育の充実</p> <p>(1) 特別支援教育推進委員会による町全体での特別支援の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ○特別支援教育推進委員会を設置し、町における特別支援教育の推進を図ることができた。 △子どもへの望ましい教育支援について、専門的な意見の提示や助言等を受け、学校として方針を持ち、計画的に支援に生かしていく必要がある。 <p>(2) 切れ目のない支援を行う体制づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ○巡回相談を実施し、特別な支援を要する子どもについての情報を共有しながら継続して支援や教育相談を行うことができた。 ○乳幼児期の早い段階から子育てへの気づきについて保護者が学ぶ機会として、外

	部講師による講演会を開催することができた。 △巡回相談だけでなく、日頃の活動等で子どもたちの気になる様子等がある場合は、速やかに適切な指導・支援につなげていく必要がある。 (3) 学習指導員・支援員等の配置（施策8-(2)参照）				
	《目標に対する進捗状況》				
	目標指標	対象	H30(県)	目標(R5)	状況(R4)
	地域や社会をよくするために何をすべきか考えたことがある児童生徒の割合（再掲）	小6	55.0(52.0)%	60.0	52.5(55.4)%
		中3	42.2(44.5)%	60.0	43.2(50.3)%
	「学習指導員・支援員」「校務支援システムの導入」「部活動指導員の配置」の着実な実施	—	—	着実な実施	実施した
	学校が楽しい児童生徒の割合	小6	91.2%	現状維持	82.5(85.4)%
中3		96.2%	現状維持	88.6(82.9)%	
障害のある児童生徒に対する個別の支援計画の作成率	小6	100.0%	100.0	100.0%	
	中3	100.0%	100.0	100.0%	
今後の方針	<p>【施策13】 地域とともにある学校づくり</p> <p>(1) 学校・家庭・地域の連携協働推進事業の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期的に学校運営協議会等を開催し、保護者や地域の方などからも意見等をいただき、学校経営の改善に反映させていく。 ・地域学校協働活動を充実させ、開かれた学校づくり、地域人材の活用をすすめていく。 <p>(2) 地域学校安全指導員の配置と見守り組織との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域学校安全指導員を中心に、見守り組織等と連携しながら、登下校における子どもたちの安全を支えていく。 ・地域学校安全指導員のあり方自体を検討していく。 <p>【施策14】 教職員がより子どもに向き合える体制づくり</p> <p>(1) 学習指導員・支援員等の配置（施策8-(2)参照）</p> <p>(2) 校務支援システムの導入</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校務支援システムの利用方法等について教職員の支援を図っていく。 <p>(3) 部活動指導員の配置</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部活動指導員を配置し、教職員の負担軽減を図っていく。 <p>【施策15】 子どもたちの安全・安心の確保</p> <p>(1) 学校施設・環境の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各校について大規模修繕等については計画的に把握修繕していく。 ・スクールバスの運行経路や乗降場所の明確化を図り、路線バスとの調整を行いながら安全・安心な運行に努める。 <p>(2) 通学路合同点検の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通学路合同点検を実施して、通学路に関する危険箇所等を把握し、関係機関で情報共有していく。 <p>(3) 地域学校安全指導員の配置と見守り組織との連携（施策13-(2)参照）</p> <p>(4) 安全教育（生活安全・交通安全・災害安全）・防災教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各校において、点検、登下校の指導、避難訓練、教職員の研修などを実施し、子どもたちのさらなる意識向上に繋げていく。 ・計画の実施後には絶えず見直しを図り、実効性のあるものにしていく。 				

	<p>【施策16】 特別支援教育の充実</p> <p>(1) 特別支援教育推進委員会による町全体での特別支援の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 引き続き、特別支援教育推進委員会を設置し、町における特別支援教育の推進を図り、子どもへの望ましい教育支援について、専門的な意見の提示や助言等を今後の指導に生かしていく。 <p>(2) 切れ目のない支援を行う体制づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> 巡回相談を実施し、特別な支援を要する子どもについての情報を共有して、子どもの自立に向けた適切な指導・支援を速やかに行っていく。 乳幼児期の早い段階から、子育てへの気づきについて保護者が学ぶ機会を継続して設定していく。
外部評価委員による評価・意見	<ul style="list-style-type: none"> 学校施設・環境の整備については、実施状況を見ると、計画的かつ迅速に行われており、子どもの安全・安心の確保と共に、教職員がより子どもに向き合い教育活動に専念できる体制づくりの面からも大いに評価できる。 コロナ禍においても、小中共に「学校が楽しい」と感じている子どもの割合が高く、学校生活全般において、児童生徒に関わる教職員の量と質の充実がうかがえる。是非、県費職員のほかに町独自の指導員・支援員の継続配置とさらなる拡充を期待したい。 学習指導員・支援員等、真室川町には多く配置されて有難いということを感じた。多くの目で子ども達を見守っていただいていると感じる。 子どもが少人数でありながらも、学習指導員や支援員等の配置のほかに特別支援学級にも力を入れていただいていることは大変ありがたい。よって、子どもが今、他の子どもたちと同じように行動できているかや、次はこんなことを目指して指導していくなど、その子どもに合った対応をしてもらえるので、親目線としては非常に助かっている。

基本方針7 家庭教育の充実を図る

施策概要	<p>親子がともに学びふれあう機会、親が家庭でのしつけや教育について学び、相談できる機会を設定し、家庭の教育力の向上を支援する。</p> <p>【施策17】 教育の原点「家庭教育」の充実</p>
実施状況	<p>【施策17】 教育の原点「家庭教育」の充実</p> <p>(1) 親の学習機会の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 教育講演会 1回 (就学時健診) やまがた子育て講座 2回 (北部小、あさひ小) 幼児共育ふれあい広場 3回 (安楽城保育所、釜淵保育所、たんぼぼこども園) 「子育て5か条パンフレット」の配布・説明 <p>(2) 子育て支援事業の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 広場事業 (わんぱく・あそび等)、子育て相談、学童クラブ等の保護者のニーズに対応した事業を行い、保護者同士の交流、相談体制の確立、未就園児や放課後児童の居場所の提供などを行った。(延人数・延件数) 子育て支援センター 869名、わんぱく広場 33名、青空わんぱく (悪天候のため中止)、赤ちゃん広場 64名、リフレッシュ講座 67名、遊びの広場 34名 あんよカフェ (新型コロナウイルス感染防止のため未開催)、学童クラブ(登録・延べ人数) 真室川 66名/7,093名 北部 22名/1,958名 あさひ 6名/783名 <p>(3) 関係団体との連携 (施策5-(2)参照)</p>

内部評価	成果（○）と課題（△） 【施策17】 教育の原点「家庭教育」の充実 (1) 親の学習機会の充実 ○就学時健診等、保護者が一堂に会する機会に教育講演会を実施することで、多くの保護者が参加できた。 △今年度は情報モラル講座として、インターネットの利用方法等について講演を行い好評を得たが、内容については引き続き検討していく必要がある。 (2) 子育て支援事業の充実 ○子育て支援センター事業や遊びの広場など、児童と保護者が一緒に利用できる事業は、保護者の本音が聞ける機会でもあり、保護者間、世代間の情報交換や交流の機会となっている。 ○子育て支援センターを毎週土曜日開所したことにより、前年度より1.7倍の利用者数となった。 ○赤ちゃん広場（4回→12回）及びリフレッシュ講座（6回→10回）の開催回数を拡大したことにより、出生数が減少している中ではあるが利用延べ人数の増加につながっている。 △祖父母を交えた世代間交流をより活性化させたく、世代を超えて伝統的な「食」を体験する「あんよカフェ」を企画したが、食を伴うためコロナ禍の影響を考慮し、3年連続で開催を断念した。遊びの広場は、出生児童数の減少と3歳未満児の保育施設入所割合が増加、新型コロナウイルス感染拡大に伴い利用人数が激減したため、継続して啓発を行い参加者を増やしていく必要がある。 (3) 関係団体との連携（施策5-2参照）			
	《目標に対する進捗状況》			
	目標指標	H30(県)	目標(R5)	状況(R4)
	子育て支援事業の参加延べ人数	1,116人	増加させる	1,067人
今後の方針	【施策17】 教育の原点「家庭教育」の充実 (1) 親の学習機会の充実 ・教育講演会は継続していく必要があるが、内容については検討していく。 (2) 子育て支援事業の充実 ・子育て支援センターの事業参加者を、広報や啓発活動によって増やしていくとともに、令和4年度より土曜開所を第2土曜日から毎週へと拡大し、利用者の利便性向上を図っている。 ・令和5年度より、受付窓口を子育て支援センターとした、短時間託児を中央公民館で実施していく。 ・新型コロナウイルス感染症が5類へと移行したが、高齢者への感染拡大を防ぐことから世代間交流を狙うあんよカフェの開催は今後も実施しないこととなったが、その他の方法により世代間交流を図っていく。 (3) 関係団体との連携（施策5-2参照）			
外部評価委員による評価・意見	・少子化や地域の間人関係の希薄化、さらに親の就労環境の悪化など家庭教育を取り巻く課題も多く、子育て支援事業等の企画の難しさを感じる。保護者のニーズと利用を阻害する問題点の分析を徹底し、これまで以上に利用者の視点での企画運営が求められるのではないだろうか。 ・コロナの影響で制限されていたものが、今年から5類へと移行したことで、世代間・異年齢でのふれ合い、活動が増え、交流が深まることを期待している。 ・子育て支援センターを毎週土曜日開所したり、赤ちゃん広場やリフレッシュ講座の			

開催回数を増やしたことで、利用者数の増加につながったことは良いことだと思う。子どもが少なくなっているにもかかわらず、リフレッシュ講座は子育てをしている保護者のリフレッシュにつながっていると思うので、継続して行ってほしい。

基本方針8 子（個）の学習支援の充実を図る

施策概要	<p>子どもが、自分の将来のために、自ら学び、高められるよう子どもと家庭を応援する。</p> <p>【施策18】 子（個）を支える家庭学習のサポート 【施策19】 自己を高める学習へのサポート</p>
実施状況	<p>【施策18】 子（個）を支える家庭学習のサポート</p> <p>(1) 「家庭学習のすすめ」の配布</p> <ul style="list-style-type: none"> ・統一した家庭学習推進パンフは配布していないが、各校の工夫により、授業と関連付けた家庭学習、手本となる自学の掲示や配布、家庭学習方法の指導を行っている。 <p>(2) 保護者向け進路講演会への支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・真中で進路説明会を開催 <p>(3) 副教材費の無償化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中学校で使用する副読本、テスト等の公費負担実施 <p>(4) 県「子どもの学習支援事業」との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭の事情等で勉強等に不安を抱えている子を対象として実施している県事業「子どものあした塾」について、支援が必要と思われる家庭に案内を送付した。 <p>【施策19】 自己を高める学習へのサポート</p> <p>(1) 実用英語技能検定受験等のサポート（施策11-(2)参照）</p> <p>(2) ふるさと企業訪問の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度は実施していないが、企画課と連携して令和5年度に実施予定。
内部評価	<p>成果（○）と課題（△）</p> <p>【施策18】 子（個）を支える家庭学習のサポート</p> <p>(1) 「家庭学習のすすめ」の配布</p> <p>△個に応じた家庭学習の内容や効果的な取組方法を指導し、家庭学習の質の向上と習慣化を図っていく必要がある。</p> <p>(2) 保護者向け進路講演会への支援</p> <p>○中学校で計画的に講演会を実施し、親子で進路を考える機会となっている。</p> <p>(3) 副教材費の無償化</p> <p>○継続して副教材費の公費負担を実施し、保護者負担を軽減できた。</p> <p>(4) 県「子どもの学習支援事業」との連携</p> <p>○支援が必要と思われる家庭に案内を送付することで、連携を図ることができた。</p> <p>【施策19】 自己を高める学習へのサポート</p> <p>(1) 実用英語技能検定受験等のサポート（施策11-(2)参照）</p>

	(2) ふるさと企業訪問の実施 △実施に向けて、関係機関との連携のもと企画検討が必要である。				
	《目標に対する進捗状況》				
	目標指標	対象	H30(県)	目標(R5)	状況(R4)
	保護者向け進路講演会の実施	中3の保護者	—	着実な実施	実施した
英検3級以上受験する中学生の割合(再掲)	中3	21.0% ※H29の状況	増加させる	50.0(42.5)%	
今後の方針	【施策18】 子(個)を支える家庭学習のサポート (1) 「家庭学習のすすめ」の配布 ・子ども自ら家庭学習の定着と内容の向上に向け、各学校の実態を踏まえた取組を工夫していく。 (2) 保護者向け進路講演会への支援 ・保護者の進路意識の高揚を図るため、今後も進路講演会を実施していく。 (3) 副教材費の無償化 ・保護者負担軽減のため、継続して副教材費の公費負担を実施していく。 (4) 県「子どもの学習支援事業」との連携 ・支援が必要と思われる家庭に案内を送付し、連携を図っていく。				
	【施策19】 自己を高める学習へのサポート (1) 実用英語技能検定受験等のサポート(施策11-(2)参照) (2) ふるさと企業訪問の実施 ・実施に向けて、関係機関との連携のもと企画検討等を行っていく。				
外部評価委員による評価・意見	・「小学校で〇級合格したから中学校まであと受けなくても良い」や「中学校で〇級合格したからもういいや」ではなく、子どものモチベーションを次へ次へと持って行けるような工夫も必要なのではないかと思う。				

基本方針9 子育てに夢をもてる環境をつくる

施策概要	安心して子育てができる環境を整え、就学前から小・中学校へ連携・連続した保育・教育の支援ができる体制整備を進める。 【施策20】 安心して子育てができる環境づくり 【施策21】 町ならではの教育基盤の整備
実施状況	【施策20】 安心して子育てができる環境づくり (1) 保育施設整備の充実 ・小学校での生活や学習を意識した、年長児教室のレイアウトの工夫、パーテーションの活用などを工夫している。 ・コロナ感染予防対策として、登所(園)前の検温、入り口での検温、手洗いや消毒の慣行など、継続して児童と保護者の意識向上を図っており、消毒薬やハンドソー

	<p>プ等の消耗品の購入、整備を行った。</p> <p>また、民間保育施設へは、補助金交付の形でコロナ対策の費用を支援した。</p> <p>(2) 放課後児童健全育成事業の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 放課後の居場所と安全の確保のため、学童クラブを運営、就学児が放課後に宿題や運動、遊びを行う場所と支援員を提供した。 <p>学童クラブ 3カ所（真小・あさひ小・北部小） 登録 94名 延利用人数 9,834名</p> <p>(3) 子育て支援事業の充実（施策17-(2)参照）</p> <p>(4) 保育士等研修の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を踏まえ、グループワークでドキュメンテーションを作成し、小学校のスタートカリキュラムに繋がるような、学びや育ちを大切にした保育について、共通理解につとめた。（年7回開催） <p>※スタートカリキュラムとは、小学校に入学した児童が、こども園や保育所などの遊びや生活を通じた学びと育ちを基礎として、主体的に自己を発揮して新しい学校生活を創り出していくためのカリキュラムのこと。</p> <p>(5) 民間保育施設への支援</p> <ul style="list-style-type: none"> 低年齢児の保育施設への入所希望の増加や、特別な支援が必要な児童の対応など、多くの保育士の配置が必要な事業について、民間保育施設の人件費を補助し、保護者のニーズに応え安全安心な保育環境を創出した。 給食材料費が高騰していることから、保護者への追加負担がないよう原材料費の伸び率12.8%分（山形市消費者物価指数より）を保育施設に補助金として交付した。 電気料の高騰が保育施設の安定的な運営に支障をきたすことから、施設の定員数に応じて支援金を給付した。 <p>(6) こ・保・小・中の連携による教育の推進（施策7-(3)参照）</p> <p>【施策21】 町ならではの教育基盤の整備</p> <p>(1) 副教材費の無償化（施策18-(3)参照）</p> <p>(2) 公営塾の拡大充実（施策8-(3)参照）</p> <p>(3) 「おいしいふるさと給食」による地産地消給食の推進（施策4-(3)参照）</p>
内部評価	<p>成果（○）と課題（△）</p> <p>【施策20】 安心して子育てができる環境づくり</p> <p>(1) 保育施設整備の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ○補助金を活用し、コロナ禍において、感染予防の消耗品を多く手配することができた。 ○令和4年に安楽城保育所の駐車場を整備し利便性の向上を図った。また、保育施設の屋根や外壁の修繕による施設の長寿命化を図り園庭用遊具を整備することで保育環境の整備に努めている。 <p>(2) 放課後児童健全育成事業の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ○放課後の保育が欠ける児童に学校の一部を居場所として提供することで、支援員の目の届くところで安全な活動が行えるほか、宿題への取り組み、支援員への質問など、家庭学習の習慣化にも寄与している。 △令和4年に支援員を1名増やしたが、依然として支援員の数が不足気味であり、加えて研修の参加も必要なため、継続して人材の確保に力を注ぐ必要がある。

	(3) 子育て支援事業の充実（施策 17-(2)参照） (4) 保育士等研修の充実 ○保育士一人ひとりが意識して保育の質の向上を図っていることが、保育施設全体に広がっており、児童への関わり方、特に主体性の育成について向上がみられる。小学校の教員も参加し共通理解を深めており、こ・保・小の連携の充実が進んでいる。 (5) こ・保・小・中の連携による教育の推進（施策 7-(3)参照） 【施策 21】 町ならではの教育基盤の整備 (1) 副教材費の無償化（施策 18-(3)参照） (2) 公営塾の拡大充実（施策 8-(3)参照） (3) 「おいしいふるさと給食」による地産地消給食の推進（施策 4-(3)参照）				
	《目標に対する進捗状況》				
	目標指標	対象	H30(県)	目標(R5)	状況(R4)
	放課後児童健全育成事業への参加延べ人数	小学生	80人	増加させる	94人
	「副教材費無償化」「公営塾の拡大充実」「おいしいふるさと給食」の着実な実施	—		着実な実施	実施した
今後の方針	【施策 20】 安心して子育てができる環境づくり (1) 保育施設整備の充実 ・年次計画を策定済みであり、適正な時期に調査設計、改修工事等を行っていく。 令和5年度 ①安楽城保育所屋根及び外壁修繕工事 ② " 設計単価校正及び監理業務委託 ③釜淵保育所園庭用トイレ等撤去工事 ④真室川町立保育施設園庭用遊具購入 ⑤釜淵保育所屋根及び外壁修繕工事实施設計業務委託 令和6年度 ①釜淵保育所屋根及び外壁修繕工事（予定） (2) 放課後児童健全育成事業の実施 ・より良い支援が行えるよう、支援員の確保と研修等が必要である。 (3) 子育て支援事業の充実（施策 17-(2)参照） (4) 保育士等研修の充実 ・継続した研修の開催により、更なる資質向上、職員全体の専門性向上に努める。 (5) こ・保・小・中の連携による教育の推進（施策 7-(3)参照） 【施策 21】 町ならではの教育基盤の整備 (1) 副教材費の無償化（施策 18-(3)参照） (2) 公営塾の拡大充実（施策 8-(3)参照） (3) 「おいしいふるさと給食」による地産地消給食の推進（施策 4-(3)参照）				
	外部評価委員による評価・意見	・副教材費の無償化、公営塾の開設、給食食材高騰分の公費負担などは、保護者の経済的負担を軽減し、安心して子育てができる家庭支援策であるとともに、基本方針8の子（個）の学習支援の充実を図る上でも高く評価されるものだと感じた。			

基本方針10 人と社会、学びをつなぐ環境をつくる

施策概要	<p>子どもから高齢者までさまざまな世代のライフステージに応じた学習機会の提供と学習内容の充実を図り、町民の主体的な学びを支援する。</p> <p>【施策22】地域の教育力向上を目指した学習環境等の充実</p> <p>【施策23】ライフステージに応じた学びの機会の支援</p> <p>【施策24】学校・家庭・地域等との連携・協働</p>
実施状況	<p>【施策22】地域の教育力向上を目指した学習環境等の充実</p> <p>(1) 社会教育団体との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10/2 町民芸術祭（町芸術文化協議会）発表 14 団体 ・11/13 婦人芸能祭（町連合婦人会） ・12/17 おはなし広場クリスマス会 26 名（よみきかせボランティア団体） <p>(2) 社会教育施設の機能向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会教育施設 個別施設計画に基づく施設の改修 <ul style="list-style-type: none"> 中央公民館防火扉等改修工事 差首鍋地区生涯学習センターキュービクル修繕工事 ・分館運営費 54 分館 上限 4 万円/分館 ・施設整備費 7 分館 1/3 補助上限 300 万円 <ul style="list-style-type: none"> 大滝分館：玄関屋根修繕 釜淵三分館：屋根塗装 西川分館：屋根及び外壁塗装 安久土分館：屋根葺き替え 宮町一分館：屋根塗装 東町二分館：屋根塗装 新町分館：屋根葺き替え <p>(3) 大学連携事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山形大学フィールドラーニング 6/11～12、7/2～3、15 名、神室少年自然の家 ・聖心女子大学学校交流 9/21 真室川小学校キャリア教育 <p>【施策23】ライフステージに応じた学びの機会の支援</p> <p>(1) 青少年の学習機会の提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・古河市交流事業 中止 ・「子ども遊び体験天国えんにち」 中止 <p>(2) 成人の学習機会の提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6/25 第7回真室川スタディツアー「大きな自然に抱かれてin甌山編」 ・10/22 第8回真室川スタディツアー「錦秋の高坂ダム編」 ・まちづくり出前講座 29 回 <p>(3) 高齢者の学習機会の提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栄寿大学講座 受講者 40 名 42 回 <p>【施策24】学校・家庭・地域等との連携・協働</p> <p>(1) 学校・家庭・地域の連携協働推進事業の充実（施策13-(1)参照）</p> <p>(2) 関係機関、町関係課、町民等との連携（施策9-(4)参照）</p> <p>(3) 放課後児童健全育成事業の実施（施策20-(2)参照）</p> <p>(4) 家庭の教育力充実への支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児共育ふれあい広場 3 回 ・やまがた子育て講座 2 回（再掲） ・読み聞かせイベント 3 回 ・読育交流会 1 回 ・ブックスタートの実施 6 回 ・ブックスタートプラス 4 回 ・「子育て5か条パンフレット」の配布・説明（再掲）

内部評価	成果（○）と課題（△） 【施策 22】地域の教育力向上を目指した学習環境等の充実 (1) 社会教育団体との連携 ○新型コロナウイルス感染症対策に留意しながら、関係団体と連携しながら3年ぶりに町民芸術祭・婦人芸能祭を開催することができた。 (2) 社会教育施設の機能向上 ○社会教育施設の計画的な長寿命化のため、個別施設計画に基づき、施設の改修を実施した。また、出前講座の実施により、地域の実情にあった公民館分館の運営を支援した。 (3) 大学連携事業 ○感染症対策を講じながら、山大フィールドラーニングを開催することができた。 【施策 23】ライフステージに応じた学びの機会の支援 (1) 青少年の学習機会の提供 △新型コロナウイルス感染症の影響により、姉妹都市である古河市との少年少女交流事業や高校生ボランティアが主催する「子ども遊び体験天国えんにち」が中止となった。 (2) 成人の学習機会の提供 ○まざれや体験塾のほか、大人の社会科見学「真室川スタディツアー」は感染症対策を講じながら参集範囲や開催時間を調整し実施することができた。 (3) 高齢者の学習機会の提供 ○栄寿大学の各種事業への支援を行った。 【施策 24】学校・家庭・地域等との連携・協働 (1) 学校・家庭・地域の連携協働推進事業の充実（施策 13-(1)参照） (2) 関係機関、町関係課、町民等との連携（施策 9-(4)参照） (3) 放課後児童健全育成事業の実施（施策 20-(2)参照） (4) 家庭の教育力充実への支援 ○新型コロナウイルス感染症の感染対策など関係機関と実施内容の調整を図ることで、講座を実施し、家庭教育の重要性を啓蒙することに努めた。				
	《目標に対する進捗状況》				
	目標指標	対象	H30(県)	目標 (R5)	状況 (R4)
	「社会教育団体との連携」「大学連携事業」の着実な実施		—	着実な実施	一部実施
	ライフステージに応じた学びの機会の支援		—	着実な実施	一部実施
「学校は、各種お便り、その他の方法で情報をよく発信していると感じる保護者」の割合		97.0%	現状維持	93.0%	
今後の方針	【施策 22】地域の教育力向上を目指した学習環境等の充実 (1) 社会教育団体との連携 ・関係団体の会議などに参加しながら、連携した事業を行うとともに、新型コロナウイルス感染症以降の各団体の活動が停滞しないよう支援する。 (2) 社会教育施設の機能向上 ・施設のハード整備に関しては、個別施設計画に基づき、年次計画を立てて計画的に維持管理していく。 ・分館運営費・施設整備費の補助制度や出前講座の周知を確実にいき、制度の普及に努めていく。 (3) 大学連携事業				

	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナウイルス感染症対策を考慮しながら、山形大学、聖心女子大学だけでなく、県内の他大学とも連携を模索していく。 <p>【施策 23】 ライフステージに応じた学びの機会の支援</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 青少年の学習機会の提供 <ul style="list-style-type: none"> ・姉妹都市交流事業や高校生ボランティアが主催する「子ども遊び体験天国えんにち」への支援を継続し、世代の連続的なつながりを深めていく。 (2) 成人の学習機会の提供 <ul style="list-style-type: none"> ・町づくり出前講座やまされや体験塾、真室川スタディツアーなど、多方面から成人の学習機会を提供していく。周知に力を入れ、町民ニーズを踏まえた事業を構築する。 (3) 高齢者の学習機会の提供 <ul style="list-style-type: none"> ・栄寿大学を核として、高齢者の学習機会の充実を図る。 <p>【施策 24】 学校・家庭・地域等との連携・協働</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 学校・家庭・地域の連携協働推進事業の充実（施策 13-(1)参照） (2) 関係機関、町関係課、町民等との連携（施策 9-(4)参照） (3) 放課後児童健全育成事業の実施（施策 20-(2)参照） (4) 家庭の教育力充実への支援 <ul style="list-style-type: none"> ・引き続きニーズに沿った講演会等を開催し、家庭教育の重要性を啓蒙する。
外部評価委員による評価・意見	<ul style="list-style-type: none"> ・【施策 23】 ライフステージに応じた学びの機会の支援は、教育振興計画の基本目標である「みんなで育む学びのまち真室川」の基盤をなす重要な施策の一つと言えると思う。真室川スタディツアーは、その核となる取り組みの一つであり、是非今後とも持続可能な取り組みとなるように工夫していただきたい。 ・中止せざるを得ない事業もあったとは思いますが、子どもから大人まで学べる充実した内容が多々あるので、今後も継続して行ってほしい。

基本方針 1 1 感性豊かに生きる学びの場をつくる

施策概要	<p>町民のくらしの質を高め、潤いのあるものにするため、文化や本物の芸術に身近にふれられる機会、町の魅力を再発見する機会や環境を整える。</p> <p>【施策 25】 文化に親しみ 文化を愛する環境づくり</p>
実施状況	<p>【施策 25】 文化に親しみ 文化を愛する環境づくり</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) まちなか図書館構想に基づく学びの拠点づくり <ul style="list-style-type: none"> ・まちなか図書館構想に基づき、フラッグを作成のうえ「小さな本棚」としてまちなかに図書を配置する事業を展開するとともに、読書活動支援団体と連携しながら事業を推進している。広報などで事業内容を定期的に周知している。また、10/2に古本市を開催し、図書に対する意識の醸成を図りながら、図書の貸し出しがより簡便にできるよう図書貸出システムを導入のうえ、希望する小中学校の生徒児童全員に対し学校を通じ図書貸出カードを配布した。 (2) 「スタディツアー」の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・6/25 第7回真室川スタディツアー「大きな自然に抱かれてin甑山編」 ・10/22 第8回真室川スタディツアー「錦秋の高坂ダム編」 (3) 芸術部門の「本物教室」の推進（施策 7-(1)参照） (4) 伝承文化団体・芸術文化活動等の発表機会の提供

	<ul style="list-style-type: none"> ・10/1～10/10 みて！みて！わたしの作品展 ・番楽フェスティバル 中止 ・11/27 ふるさと子ども伝承祭 ・10/2 県児童生徒版画作品展表彰式 ・10/2 町民芸術祭 ・11/13 婦人芸能祭 									
内部評価	<p>成果（○）と課題（△）</p> <p>【施策25】文化に親しみ 文化を愛する環境づくり</p> <p>(1) まちなか図書館構想に基づく学びの拠点づくり</p> <p>○まちなか図書館構想に基づき、まちなかに図書を配置するとともに、町民からの支援をいただきながら図書環境の向上につながる事業が推進できた。</p> <p>○蔵書数の増や利用者からのリクエストに基づく選書、図書館貸出システムの導入等により貸出し冊数が増えた。(6,402冊→7,126冊)</p> <p>(2) 「スタディツアー」の実施</p> <p>○コロナ禍のため、町内在住者限定となったが、アンケート結果から参加者からの評価は高く、一定の評価を得られたと感じている。</p> <p>(3) 芸術部門の「本物教室」の推進（施策7-(1)参照）</p> <p>(4) 伝承文化団体・芸術文化活動等の発表機会の提供</p> <p>△県児童生徒版画作品展については、感染症対策を講じながら開催することができ、一定の事業効果があった。一部の事業については新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、数年ぶりに事業を実施することができ、次年度に向けて新たな事業実施の在り方を模索しながら事業を再構築していく必要がある。</p>									
	《目標に対する進捗状況》									
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>目標指標</th> <th>対象</th> <th>H30(県)</th> <th>目標(R5)</th> <th>状況(R4)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>図書貸出数</td> <td></td> <td>1,688冊</td> <td>増加させる</td> <td>7,126冊</td> </tr> </tbody> </table>	目標指標	対象	H30(県)	目標(R5)	状況(R4)	図書貸出数		1,688冊	増加させる
目標指標	対象	H30(県)	目標(R5)	状況(R4)						
図書貸出数		1,688冊	増加させる	7,126冊						
今後の方針	<p>【施策25】文化に親しみ 文化を愛する環境づくり</p> <p>(1) まちなか図書館構想に基づく学びの拠点づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「まちなか図書館構想」に基づき、町内各所に「小さな本棚」を設置するとともに、読書活動支援団体主体の本に関するイベントを企画する。 <p>(2) 「スタディツアー」の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・過去に開催した参加者アンケートを活用し、ニーズにあったテーマで年間2回のツアーを実施する。 <p>(3) 芸術部門の「本物教室」の推進（施策7-(1)参照）</p> <p>(4) 伝承文化団体・芸術文化活動等の発表機会の提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き関係団体と連携し、改善を加えながら事業を実施する。 									

外部評価委員 による評価・意見	<ul style="list-style-type: none"> ・大人の社会科見学「真室川スタディツアー」は、町の学習資源の掘り起こしという観点からも、貴重且つ重要な取り組みだと思う。ぜひ、終了した資料は、DVD盤などにまとめて、小中学校の調べ学習の資料としても活用できるように配布してはどうか。 ・スタディツアーへの参加はまだできていないが、参加者からは「良かった」とよく聞くので、ぜひ参加して知らない真室川町の良さを発見したい。 ・町の図書貸出数が大幅に増加している。自分自身も行ってみたいと思うことが多くなり、利用させてもらっている。入口の玄関ホール広場はわくわく感がある。 ・「まちなか図書館構想」により「小さな本棚」を設置していることで、時々手に取ってみることもあるし、実際本を読んでいる方を見かけることがある。図書館の本も増え、充実していると感じる。
--------------------	--

基本方針12 誰もが楽しめるスポーツを推進する

施策概要	<p>子どもから高齢者まで気軽にスポーツ・レクリエーションに親しめる環境づくりとスポーツ選手にふれる機会を提供する。</p> <p>【施策26】スポーツに親しみ 健康な体づくり</p> <p>【施策27】競技スポーツの振興</p>
実施状況	<p>【施策26】スポーツに親しみ 健康な体づくり</p> <p>(1) 総合型地域スポーツクラブ設立へ向けた取り組みの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内部検討の実施 <p>(2) スポーツ部門の「本物教室」の推進（施策7-(1)参照）</p> <p>(3) スポーツ環境・町総合運動公園等の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動公園内芝管理の委託 ・町民体育館ピロティ不陸整正工事 ・町民球場転落防止柵改修工事 ・町民球場照明制御盤収納ボックス改修工事 ・トレーニング機器、卓球台、野球場備品等の購入 <p>【施策27】競技スポーツの振興</p> <p>(1) 選手や指導者の育成支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ教室（陸上）6回 延べ51名 ・町運動部活動ガイドラインの適切な運用 <p>(2) 各種競技会の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町民総合体育大会 ・2/12 第82回秋山スキー大会 156名 <p>(3) スポーツ環境・町総合運動公園等の整備（施策26-(3)参照）</p>
内部評価	<p>成果（○）と課題（△）</p> <p>【施策26】スポーツに親しみ 健康な体づくり</p> <p>(1) 総合型地域スポーツクラブ設立へ向けた取り組みの推進</p> <p>○県のアドバイザー等に助言をいただき、内部検討会を実施した。</p>

	<p>△先進地事例など研究すると財源的に将来にわたって継続できる事業とすることが難しく、調整が必要である。</p> <p>(2) スポーツ部門の「本物教室」の推進（施策7-(1)参照）</p> <p>(3) スポーツ環境・町総合運動公園等の整備 ○計画的に備品等の更新ができた。 △全体的な施設設備の老朽化がすすんでおり、修繕を要する箇所も多くなっているが、財源の確保及び事業の事業費平準化の観点から、全てを同時に対応することが難しい。</p> <p>【施策27】 競技スポーツの振興</p> <p>(1) 選手や指導者の育成支援 ○全国大会に出場できるレベルの選手を一定程度育成できた。 △競技人口が減少している。</p> <p>(2) 各種競技会の開催 ○秋山スキー大会実行委員会と小体連評議委員会との協議を重ね、今後も持続可能な新たな開催方法を確立することができた。 ○80周年を記念した秋山スキー大会の記念誌を発行することができた。 △小体連を包括的に含んだ秋山スキー大会としたため、個人の競技力の差がより大きく感じられる結果となった。</p> <p>(3) スポーツ環境・町総合運動公園等の整備（施策26-(3)参照）</p>				
	《目標に対する進捗状況》				
	目標指標	対象	H30(県)	目標(R5)	状況(R4)
	総合型スポーツクラブ加入率		0.0%	着実な実施	0.0%
真室川町スポーツ協会表彰者数		40人	現状維持	62人	
今後の方針	<p>【施策26】 スポーツに親しみ 健康な体づくり</p> <p>(1) 総合型地域スポーツクラブ設立へ向けた取り組みの推進 ・引き続き先進地事例などを調査し、将来にわたって継続できる枠組みを研究する。</p> <p>(2) スポーツ部門の「本物教室」の推進（施策7-(1)参照）</p> <p>(3) スポーツ環境・町総合運動公園等の整備 ・施設のハード整備に関しては、個別施設計画に基づき、年次計画を立てて計画的に維持管理していく。</p> <p>(4) 休日の部活動地域移行について、関係機関と連携しながら協議を進めていく。</p> <p>【施策27】 競技スポーツの振興</p> <p>(1) 選手や指導者の育成支援 ・低年齢からスポーツに親しむ環境を提供し、競技人口の拡大につなげていく。 ・施設利用について65歳以上の使用料を無料としているほか、町内小中学生についても令和5年度より使用料を全額減免（照明等の設備料金を除く）する。</p> <p>(2) 各種競技会の開催 ・競技力の向上と競技スポーツに触れる取組みとして、町内小学生の秋山スキー大会への参加を促す。</p> <p>(3) スポーツ環境・町総合運動公園等の整備（施策26-(3)参照）</p>				

外部評価委員 による評価・意見	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育（小体連）、社会教育（スポ少）それぞれの抱える課題に対応して改革が進められた「秋山スキー大会」がコロナ禍においてようやく開催された。教育委員会の英断と関係者の努力に対し、敬意を表すべきことと思う。是非、問題点を一つ一つクリアして、時代に即応したより良い大会のモデルにしていきたい。 ・真室川町といえば「秋山スキー大会」という80周年もの歴史がある名のある大会。町には青木富美子選手というオリンピックに出場した現役の方がいるので、小学校のスキー授業で、年に1回だけでも滑るためのコツを教えてもらうという「本物教室」を開催していただきたい。青木選手のスキー授業を周知すれば、子ども達も保護者も応援する人が更に増えると思う。 ・小体連を包括的に含んだ秋山スキー大会ということで、やはりレベルの差（スキー大会に常に出場している選手との差）が大きく、少し可哀そうに思えた部分があった。参加者が少なくなってきたので仕方のないところではあるが、そのような選手との距離など、違いがあっても良いのではないかと思った。また、スキー大会に常に出場している選手から見れば、小体連と一緒に少し物足りない気がする。
--------------------	--

基本方針13 ふるさとの心を耕す場をつくる

施策概要	<p>豊かな自然や伝統ある歴史など、町にある「学びの資源」を活用することで、町を大切にしたいと思える心を育む。</p> <p>【施策28】郷土愛の醸成</p>
実施状況	<p>【施策28】郷土愛の醸成</p> <p>(1) 伝承文化等の歴史的資源の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・番楽フェスティバル 中止 ・11/27 ふるさと子ども伝承祭 ・10/2 県児童生徒版画作品展表彰式 ・ふるさと塾出前講座6回（たんぼぼこども園） ・地元学・伝承文化アドバイザー派遣事業3回 <p>(2) 文化財の保存活用・希少動物の保全保護</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6/24 町文化財定期巡回 ・8/6 まざれや体験塾「中村湿原/ハッチョウトンボ観察会」 ・7/14 真室川小学校出前講座（鮭延氏について） ・7/21 真室川小学校校外学習（土偶、鮭延城跡関連） <p>(3) 町歴史民俗資料館企画・展示等の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・7/30～9/4 真室川森林鉄道の歴史とあゆみ展 ・2/25～4/9 真室川雛人形展 <p>(4) スタディツアーの実施（施策25-(2)参照）</p>
内部評価	<p>成果（○）と課題（△）</p> <p>【施策28】郷土愛の醸成</p> <p>(1) 伝承文化等の歴史的資源の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ○新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、数年ぶりに多くの事業を再開することができた。 <p>(2) 文化財の保存・希少動物の保全保護</p> <ul style="list-style-type: none"> ○文化財の保存については、新型コロナウイルス感染症対策を行いながら、計画した事業を予定通り実施することができた。 <p>(3) 町歴史民俗資料館企画・展示等の充実</p>

	<p>△館長が兼務となったことで、企画展が2回のみの実施となった。併せてコロナ禍の影響もあり、来館者数が伸びなかった。</p> <p>(4) スタディツアーの実施（施策 25-(2)参照）</p>								
《目標に対する進捗状況》									
目標指標	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 25%;">対象</th> <th style="width: 25%;">H30(県)</th> <th style="width: 25%;">目標(R5)</th> <th style="width: 25%;">状況(R4)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">着実な実施</td> <td style="text-align: center;">一部実施</td> </tr> </tbody> </table>	対象	H30(県)	目標(R5)	状況(R4)	-	-	着実な実施	一部実施
対象	H30(県)	目標(R5)	状況(R4)						
-	-	着実な実施	一部実施						
「伝承文化の発表」「文化財の保存・希少動物の保全保護」「歴史民俗資料館企画展」の着実な実施									
今後の方針	<p>【施策 28】郷土愛の醸成</p> <p>(1) 伝承文化等の歴史的資源の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き関係団体と連携し、広報活動など改善を加えながらイベントを実施する。 <p>(2) 文化財の保存・希少動物の保全保護</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施事業の内容をホームページなどで公開し、広く周知に努める。 <p>(3) 町歴史民俗資料館企画・展示等の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新たに館長を配置しながら資料館と連携を強化し、企画の充実を図る。広報活動に力を入れ、来場者増につなげる。 ・小中学生、企画展の入場料無料化を図り、町を知り、町を愛し、誇りに思う心を育てる。 <p>(4) スタディツアーの実施（施策 25-(2)参照）</p>								
外部評価委員による評価・意見	<ul style="list-style-type: none"> ・基本方針4の【施策9】未来に向けた「ふるさと学習」の推進に示されている、町としての「ふるさと検定」は、児童生徒を対象にした取り組みではなく、老若男女、町内外在住等を問わず広くし、内容は、街のホームページで公開されている例えば、「スタディツアー」の内容からも取り入れるなど、郷土愛の醸成を図る取り組みの一つとして模索できないだろうか。 ・町のLINEもできており、身近で行事等の連絡も見られるようになり有難いと感じる。近所でも付き合いが減ってきている今日、町の行事等により地域の異年齢交流のできる場が増えることを願う。 ・コロナ禍にも関わらず多くの事業を再開できたことは大変良かったと思う。スタディツアーなど今後も継続して行ってほしい。 ・ふるさと子ども伝承祭では、久しぶりに大きいステージで発表することができ、子ども達にとっては、良い緊張感を持っての発表だったと思う。また、地域の方々も子ども達の声を聞くことができ嬉しかったのではないかと思う。 								

教育委員会の活動報告

(令和4年4月1日～令和5年3月31日)

1 教育委員会組織

○委員の就任状況

令和5年3月31日現在

役 職	氏 名	就任年月日	摘 要
教育長	門脇 昭	H30. 4. 1	2期目
委 員	遠田 且子	H22. 12. 16	4期目
委 員	山田 敏一	H28. 10. 1	2期目
委 員	鮭延 三枝子	H29. 12. 25	2期目
委 員	中塚 聖子	R1. 10. 1	1期目

2 町総合教育会議の開催

○第1回総合教育会議

開催日 令和4年10月26日

議 題 (1)教育行政の当面の課題について

- ①学校教育事業関係
- ②生涯学習事業関係
- ③子育て支援事業関係

3 教育委員会の会議等の開催状況

教育委員会の会議は、原則として毎月1回（定例会・臨時会・協議会等）開催しています。この会議では教育行政の基本方針の決定、教育に関する規則の制定などについて審議します。

区 分	開催日	主な協議事項
協 議 会	R4. 4. 22	・町教育振興計画の推進について
定 例 会	R4. 5. 25	<ul style="list-style-type: none"> ・学校医等の委嘱について ・真室川町教育支援委員会委員の委嘱について ・真室川町特別支援教育推進委員会委員の委嘱について ・真室川町学校教育指導委員会委員の委嘱について ・真室川町いじめ問題対策連絡協議会委員の委嘱について ・真室川町学校運営協議会委員の任命について ・真室川町外国語教育推進委員会委員の委嘱について ・真室川町学校保健委員会委員の委嘱について ・真室川町教職員安全衛生委員会委員の委嘱について ・真室川町学校給食運営委員会委員の委嘱について ・真室川町学校給食献立作成委員会委員の委嘱について

		<ul style="list-style-type: none"> ・真室川町行事調整委員会委員の委嘱について ・真室川町行事調整委員会委員の委嘱について ・真室川町文化行事企画委員会委員の委嘱について ・真室川町社会科副読本編集委員会委員の委嘱について ・真室川町公民館運営審議会委員及び真室川町社会教育委員の委嘱について ・真室川町文化財保護委員会委員及び真室川町立歴史民俗資料館運営委員会委員の委嘱について ・真室川町青少年問題協議会委員の委嘱について ・真室川町青少年指導委員及び真室川町青少年育成推進員の委嘱について ・真室川町スポーツ推進委員の委嘱について
協議会	R4. 6. 29	<ul style="list-style-type: none"> ・町教育振興計画の重点施策の進捗状況、今後の予定について
定例会	R4. 7. 20	<ul style="list-style-type: none"> ・町議会の議決を要する事件の議案について（工事契約の締結） ・真室川町立小中学校管理規則の一部を改正する規則の制定について ・令和5年度使用真室川町立小・中学校用教科用図書の採択について
定例会	R4. 8. 23	<ul style="list-style-type: none"> ・教育委員会事務・事業点検評価の報告について ・真室川町教育委員会外国語指導助手任用規則の一部を改正する規則の制定について ・教育予算補正案の原案について
協議会	R4. 9. 28	<ul style="list-style-type: none"> ・研修視察（寒河江市立図書館、大石田町立図書館）
協議会	R4. 10. 26	<ul style="list-style-type: none"> ・性暴力防止法施行に伴う本町の対応について
定例会	R4. 11. 18	<ul style="list-style-type: none"> ・町議会の議決を要する事件の議案について（工事変更契約の締結） ・教育予算補正案の原案について
定例会	R4. 12. 27	<ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度教育予算案の原案について
協議会	R5. 1. 27	<ul style="list-style-type: none"> ・重点施策実施状況（おいしいふるさと給食、英検受検状況、秋山スキー大会など）
定例会	R5. 2. 21	<ul style="list-style-type: none"> ・真室川町学校林の設置、経営及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定に係る原案について ・真室川町教育委員会傍聴人規則の一部を改正する規則の制定について ・教育予算補正案の原案について
臨時会	R5. 3. 6	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員人事異動について
定例会	R5. 3. 27	<ul style="list-style-type: none"> ・真室川町教育委員会自動車管理規則の一部を改正する規則の制定について ・真室川町立小中学校管理規則の一部を改正する規則の制定について

		<ul style="list-style-type: none">・真室川町立歴史民俗資料館入館料減免規則の制定について・真室川町体育施設使用料減免規則の一部を改正する規則の制定について・令和5年度人事の審議について
--	--	---

4 その他の活動

(1) 会議・研修等への出席

- 教育職員全体研修会
- 町議会との教育懇話会
- 全国へき地教育研究大会（北部小学校）
- 最上地区市町村教育委員会協議会研修総会
- 最上地区市町村教育委員会協議会研修会
- 山形県町村教育長会定期総会
- 山形縣市町村教育委員会大会
- 山形縣市町村教育委員会教育長会議
- 山形縣市町村教育委員会協議会総会
- 東北町村教育長連絡協議会定期総会

(2) 学校等行事への出席

- 小中学校入学式、保育所入所式、こども園入園式
- 小中学校運動会、保育所運動会
- 小体連陸上大会
- 保育所おたのしみ発表会
- 小学校スキー大会
- 秋山スキー大会（小体連スキー大会）
- 小中学校卒業式、保育所修了式、こども園卒園式

(3) 学校等訪問

- 小中学校・保育所・こども園訪問